

生活科
生活科
生活科

第1・2学年 生活科 学習指導案

平成27年11月20日(金) 5校時

東雲小学校 1学年6名 2学年7名

指導者 福田 由紀子 土本 潤子

梶原 望生(支援員)

ゲストティーチャー

佐伯市総務課防災危機管理課

市原 雄次郎

1. 単元名 じしんやつなみからじぶんをまもろう <内容(3)地域と生活>

2. 単元目標

- 学校外で地震や津波が起きたときの避難の仕方を知ることができる。 【1年 気付き】
- 学校外や家の中の経路において、周囲の危険性に気づくことができる。 【2年 気付き】
- 自分たちで避難する方法を考え、表現することができる。 【1・2年 思考・表現】
- 学習したことを、全校のみんなや家庭や地域の人に知らせることができる。 【1・2年 関心・意欲・態度】

3. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
・学校外で地震や津波が起きたときに、周りがある危険な所に関心を持って調べ、危険を回避しようとしている。	・学校外で地震が起きたときの危険を予想し、回避する行動を考えることができる。 ・見つけたこと、わかったこと、感じたこと、考えたことを表現することができる。	・校外には危険な所があることに気付く。

4. 単元における「伝え合う力の育成」のための工夫

自分の考えを持つ	自分の考えと比べる、まとめる	交流する
○家の人から聞いてきたことをまとめさせる。 ○場所や場面によって避難する方法を考えさせる。	○友だちのいいところに気づかせる。 ○伝えたいことをきちんと伝えるように、話形(ことば貯金)を使って話させる。	○家や公園、道路で地震にあった時の避難の仕方をロールプレイで発し、質問やいいところを出し合わせる。

5. 指導計画(総時数6時間)

時	学 習 活 動	主な支援	他教科との関連	評 価
前時 まで	○(生活科)「きせつとともだち(1年)」「ふしぎたんけんふれあいたんけん(2年)」(6~7月) ・施設でインタビューをしたり、支所の方から新しい避難場所を案内してもらったりした。地区ごとに避難場所をおさえ、友だちの家、公園、施設、店などを地図に表している。		○(国語)2年 「1年生に探検したことを伝えよう」 ・地図に整理したことを1年生に分かるように発表している。 ○(図工)1・2年「地図作り」 ・施設などを絵で表し地図にはっている。	

前時 まで	○（生活科）「がっこうたんけん」（10月） ・地震の際、運動場や校内の危険な箇所を探し、地図にまとめて交流し合っている。 ○（生活科）防災キャンプのふり返り（9月） ・縦割り班で、避難訓練やバケツリレー、ごはんたき、テントはり、トイレ作りなどに参加し、地震・津波時の避難の仕方について体験したことを絵日記に表している。	○（道徳）1・2年（9月PTA） ・絵本「こんなときどうするの？」を使い、保護者といろいろな場所にいるときの避難の仕方を学習し、自分の命を自分で守る方法を考えている。		
1	家、公園、道路で地震が起きた時どうしたらよいか考え、実際に校区内の道路・公園を歩いてみる。	実際の場所で地震にあった時の対処の仕方を考えさせる。		気 学校外には危険な所があることに気付く。
2 3	家、公園、道路で地震が起きた時の避難の仕方をグループで考え、役を決めてロールプレイの練習をする。	具体的な場面を表し、どうすればよいか考えさせる。		関 学校外で地震や津波が起きた時に周りにある危険な所に関心を持って調べ、危険を回避しようとしている。
4 本 時	家、公園、道路で地震が起きた時のロールプレイを見合い、質問やよいところを出し合う。ゲストティーチャーの助言を聞いてより望ましい避難の仕方を知る。	○友だちのがんばりや良い所を見つけさせる。 ○ロールプレイやゲストティーチャーの助言を生かして考えさせる。	（国語）1年 「みぶりでつたえる」 伝えたいことを動作で表現する。	思・表 校外で地震が起きたときの危険を予想し、回避する行動を考えることができる。
5 6	わかったことを地図や絵と作文で表し、全校のみんなや、保護者、地域へ知らせる。	ロールプレイをしてわかったことをまとめさせる。	（国語）2年 「メモをもとに文章を書こう」 絵日記に文章や絵を表す。	思・表 見つけたこと、わかったこと、感じたこと、考えたことを表現することができる。

6. 本時案（4／6時）

- (1) 題目 じしんやつなみがおきたらどうしたらいいかな
- (2) 主眼 自分たちだけで安全に避難するよりよい方法を、ロールプレイを通して発表しあったり、質問や感想を出し合ったり、ゲストティーチャーの助言を聞いたりすることにより、考えることができる。
- (3) 展開

学習活動	時間	指導及び指導上の留意点	評価
1. 本時のめあてを知る。	5	○地震や津波から自分を守るために、いろいろな場所でどうしたらいいか考えることを知らせる。	
(めあて) じしんやつなみがおきたとき、どうしたらいいかかんがえよう			
		・場所や場面によって避難する方法を考えさせる。	

<p>2. いろいろな場所で地震にあった時のロールプレイをし、ゲストティーチャーの助言を聞き、もう一度よりよい避難方法のロールプレイをする。</p>	<p>35</p>	<p>○家で、公園で、道路で地震にあった時にどうするか、どこに逃げるか、3つのグループに分けロールプレイで出し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つのグループ発表後、ゲストティーチャーに、みんなの考えた方法で逃げられるか、よりよい方法はないか、助言してもらおう。 <p>-----</p> <p>家で、友だちと遊んでいる時に地震がおきた。家には大人がだれもいない。</p> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年下の子がうごけずかたまる ・年下の子がなく ・ゲームを止めて机の下に潜る ・頭を守る ・家の人と約束したところにメモを残して逃げる <p>-----</p> <p>公園で遊んでいる時に地震がおきた。 (しおさい公園)</p> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべり台にしがみつく ・すべり台からおりて広い所でだんごむしになる ・あずま屋のベンチの下にかくれる ・しおさいに逃げて大人の人に聞く ・家に帰ろうとする (△) ・避難場所のうちどんに逃げる <p>-----</p> <p>下校中、道路で地震にあった。(線路や狭い路地で)</p> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塀のそば、道路のまん中、フェンスのそばでだんごむしをする ・ランドセルや袋で頭を守る ・家にそのまま帰る (△) ・落ちている物に気をつける (ガラス・かわら・ブロックべい・電線、植木鉢など) ・それぞれのグループに質問をさせる。 ・助言を受けてかえた方がよい場合は、もう一度させる。 	<p>思・表</p> <p>校外で地震が起きたときの危険を予想し、回避する行動を考えることができる。 (発言・動作)</p>
<p>3. よりよい避難の仕方をまとめる。</p>	<p>5</p>	<p>○わかったこと、気をつけたいことを出し合わせる。</p> <p>(まとめ)</p> <p>あたまをまもり、まわりにきけんなものがないかをかんがえて、たかいところへにげることがたいせつである。</p>	